

31-1118

幼児に対する薬の正しい使い方絵本の作成

○齋藤 百枝美¹, 江戸 清人¹ (¹福島大病院薬)

【目的】これまで我々は、義務教育の児童に対する段階別薬の正しい使い方テキスト、およびテキストに準拠した講師用テキストを作成した。これらのテキストを用いた薬の正しい使い方授業は、児童の薬に対する理解の深まり、薬に対する意識の向上、服薬上の注意事項の理解等において極めて有用な手段であることが認められた。

今回、さらに低年齢の幼児に対する薬の正しい使い方絵本および保護者への薬の正しい使い方パンフレットを作成したので報告する。

【絵本作成のコンセプト】①薬は病気の治療、症状の改善など大切な働きをすることを理解する、②薬は正しく使うことにより薬としての働きをすることを理解する、③薬は健康な生活を送るための手助けをしてくれることを理解する。

【作成方法】絵本のストーリー、主題について絵本作家と協議を重ねた。ストーリーは単純明快に、登場人物は子供が親しみやすく薬のイメージにあったキャラクターとした（山羊のクスクス先生（医師）、クマとキツネの子供、くまのお母さん）。薬の使用は子供が具体的に場面を想起できる腹痛時とした。また、保護者向けに薬の正しい使い方パンフレット（内容：薬を飲むときの7つの約束、子どもへの薬の使い方Q&A）を作成した。

【考察】現在、セルフメディケーション、インフォームドコンセントの推進が図られている。これらを推進していくためには、早期から薬に対する正しい認識を教育する必要があると考える。今後、作成した絵本の評価を実施していく予定である。